

大槌町教育委員会だより



檮こずえの梢けやきから



次代を担う大槌町の子どもたちが「伝えたい」こと ～令和4年度「わたしの主張」釜石大会開催～

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、作文および映像での審査となりましたが、今年度は、最低限の観客を入れての開催となりました。釜石大会は、釜石・大槌の中学校から7人の生徒が出場し、それぞれが未来に向けての夢や社会に対する意見、また日常生活の中で感じたことなどを素晴らしい表現力で発表しました。町からは、大槌学園9年生の八幡天馬さんと吉里吉里学園9年生の木下望愛さんが出場し、木下さんが見事最優秀賞に輝きました。

「野球少女からの提言」

吉里吉里学園9年 木下 望愛

私は、小学1年から9年間、野球に打ち込んできました。女子は私1人、男子に交じって練習してきました。野球の魅力は、一球一球に全集中し、9人でカバーしあいながら勝利を目指して頑張るところにあります。

しかし、残念ながら、私たちの野球部は、部員がたったの3人でした。ですから、練習内容も限られ、けっして満足いく部活動ではありませんでした。しかも、練習によるストレスから、イライラして喧嘩してしまうこともあり、本当にこの3人で楽しく練習ができるのか、不安になったこともありました。

そして、一番大変だったことは、大会に出るとき、自分たちだけではチームが組めないことでした。

野球は9人でするものなのに、たった3人ですから、当然、大会に参加する場合には、他の学校との合同チームということになりました。練習場所には、バスで移動して、限られた時間で練習しました。

私は、あんなに大好きだった野球を、苦しく思うようになりました。練習メニューがどんなに辛くても頑張りましたが、このような環境の中での練習では、楽しさより、やり切れない思いの方が強くなってしまったのです。

小学1年から夢中になって取り組んできた野球なのに、人数が少ないという理由だけで楽しめないのは、あまりにも理不尽な気がしてなりませんでした。

しかし、私はある新聞の記事で、このような状況の中で、部活動に取り組んでいる生徒が、他にもたくさんいることを知りました。

それは、「小中学生10年で100万人減」という記事を目にした時でした。それを読んで、岩手県は、全国で4番目の減少率であることを知りました。私の住む大槌町も、小中学校が7校から3校に減っていました。

こういった現状からも、全国的に生徒数が減り、

部活動が満足のいくものにはならなくなってきていることが、はっきりと分かりました。

部員数が足らずに、廃部にまで追い込まれたり、合同チームという形を取らざるをえなかったり・・・。

近年、好きなスポーツができなくなってしまっている生徒たちが、たくさんいることを私は知りました。

だから、今私は、大好きな野球を9年間続けて来られたことを、前向きに考えてみようと思ったのです。

たったの3人で、満足できる練習ではなかったにしても、冬のトレーニングで、3人で声をかけ合い、何度もダッシュで駆け上がった坂道や、試合で負けても励まし合ったバスの中や・・・。

いい思い出だったたくさんあったことに気がつきました。今までの9年間、いろいろなことがありましたが、私が野球をやめなかったのは、それだけ野球が好きだったし、そばにはいつも応援してくれた親や先生、私と同じように野球が好きな仲間たちがいたからでした。

私は、「スポーツは音楽に似ている」と最近思っています。音楽も大勢で歌う合唱もあれば、一人で歌うソロもあります。どちらも音楽であることには変わりはありません。どちらもそれぞれに楽しみ方があるのです。スポーツもそうです。人数が少なくても、考え方一つで、工夫一つで、楽しいものになるのです。不満を抱くよりも、そこに価値を見出し、ベストを尽くせば、きっと明るい道が拓けるはずだと、私は考えるようになりました。

これから生徒の人数がますます少なくなり、私たち3人のような状況で、練習をしなければならない人たちが増えていくと思います。でも、スポーツを楽しむ、苦しくても全力で挑戦する気持ちをもって、自分が好きなスポーツにこれからも、取り組んでほしいと、私は思います。



大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民のみなさまにお伝えします！



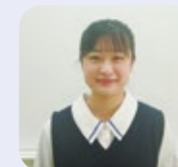
大槌高校のnoteでも行事等の様子を発信しています！

「大槌“で”学ぶ！」2年生マイプロジェクト

このページではこれまでに、町内出身の生徒や、県外留学生を中心に特集させていただきました。しかし、大槌高校には釜石市や山田町出身の生徒も多く在籍しています。今回は2年生のマイプロジェクトを取り上げ、大槌町をフィールドに自らの興味を深め、学び合う生徒たちの様子をお伝えします！

悩みを相談しやすい 社会をつくりたい

おりかさ ゆうあ
織笠 夕愛さん
(山田町立山田中学校出身)



私は「地元だけでなく、他の地域の子とも関わってみたい」という思いで大槌高校に進学しました。私自身が中学生の時に悩みを抱え、周囲のサポートに救われた経験から、「悩みを抱えている人が相談しやすい環境づくり」をテーマに活動しています。大槌町の社会福祉協議会やスクールソーシャルワーカーの方へのヒアリング調査を通して、悩んでいる本人が「助けてほしい」と気軽に言えるようになることが重要だと感じました。繊細で難しいテーマですが、将来の夢にもつながっているので、解決に向けてこれからも頑張りたいです。



海洋生物に優しい 環境をつくりたい

まえだ あおと
前田 碧斗さん
(釜石市立甲子中学校出身)



中学生の時に、ウミガメの鼻にストローが刺さっているニュースを目にしたことがきっかけで、海洋生物や環境保護に興味を持つようになりました。高校入学後は「はま研究会」の活動を中心に、東京大学海洋研究所の先生方と一緒に研究を行っており、吉里吉里海岸の清掃や、集めた海ごみの分別作業に取り組んできました。現在は「プラスチックごみは本当に環境に悪いのか？」というテーマで、高校の化学室で自ら実験を行っています。化学の先生や、大学教授にサポートしてもらえる環境はとて有り難いです。



高校生と地域をつなぐ架け橋になりたい



えんどう みゆ
遠藤 望結さん
(大槌学園出身)

私が大槌町に住み始めたのは震災後になりますが、祖母が赤浜地区に住んでおり、震災前から何度も遊びに来ていました。その度に、地域の方々が温かく接してくれたことが今でも心に残っています。そのような原体験から「地域のコミュニティづくり」をテーマにしました。これまでに、若者が自分のやりたいことについて語り合うイベントを開催したり、役場の協働地域づくり推進課、赤浜公民館、町内でコミュニティづくりの活動を行っている団体などを訪問させていただき、現状や課題を調査しました。今後は、地域活動に若者が参加するための「つなぎ役」に私自身がなることで少しでも貢献できるように頑張りたいです。



生徒座談会 「大槌“で”学ぶことの良さとは？」

今回紹介した生徒3名が、「大槌町や大槌高校で学ぶことの良さ」について語り合う座談会を行いました。お互いに共感ポイントが見つかるなど、とても盛り上がりました。生徒の発言の一部を抜粋して紹介します。



左から
前田碧斗さん、織笠夕愛さん、
遠藤望結さん

- (前) 僕は海に関するテーマで活動しているので、すぐに行ける距離に海があることや、海に詳しい大人がたくさんいることが良いと思います。地元にも海はありますが、探究を行う場所として、大槌はいい環境だと思います。
- (織) 私は活動を進める中で、大槌には活動を応援してくれる温かい大人がたくさんいることを実感しました。訪問先の方が、また次の方を紹介してくれたり、ヒントになる情報を自ら提供してくれたり、と、たくさんの協力をいただいています。そうした応援に私も応えたいです。
- (遠) 高校に進学してから、自分たちが当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなかったということに気づくことがたくさんありました。町外出身の生徒との関わりや、地域の大人との関わりを通して、自分の視野や価値観が広がっていくのがとても楽しいです。